

# 川下地区まちづくりニュース



## 「川下地区まちづくり計画」の見直し検討を始めました！

平成22年に「川下地区まちづくり計画」を策定してから早10年が過ぎようとしています。その間、川下地区もずいぶんと変化してきました。その変化を踏まえ、次の新たな10年に向けて「川下地区まちづくり計画」の見直しを始めています。

令和2年度はまちづくり協議会が中心となり”見直し案”を検討し、令和3年度はこれを取りまとめ、地区住民の皆さんとの意見交換会を開催しながら一緒にこれからの川下地区のまちづくりを考え、新しい「川下地区まちづくり計画」の完成を目指したいと思っています。

昨年12月10日に「第1回まちづくり計画検討会」を開催しました。その主な内容についてご紹介させていただきますのでご覧下さい。(川下地区まちづくり協議会 会長 八木秀典)

### 第1回まちづくり計画検討会 (令和2年12月10日開催)

#### 検討テーマ1 にぎわい・交流・拠点づくり

令和元年度に開催した2回の意見交換会で出された多くの意見から“見直しのポイント”を整理した結果、テーマ1「にぎわい・交流・拠点づくり」と、テーマ2「住環境の改善」という2つの大きなテーマを切り口に見直しを考えてゆくことにしました。第1回検討会では、テーマ1を中心に検討を行いました。

#### 「川下出張所周辺の拠点づくり」について

○川下地区での「にぎわい」の場となる施設として、デルタミネのイベントや国際交流イベントを開催できる広い拠点となる施設が必要。

○供用会館は、自治会も年に数回は利用するが、たいていは、目的をもったグループやサークルが個々の活動で利用している。コミュニティを支える日常的な交流の場としての利用はほとんどされていない。

○日常的な利用を生み出す、気軽に立ち寄れる施設があると、川下地区内での多様な世代での交流を生み出し、災害時などいざという時に必要なコミュニティの力を発揮できる。  
(建物のロビー、図書館など、自由な往来を生み出す空間があるとよい)

○川下地区で想定される災害のうち、水害対策として、避難場所を担える施設(2階以上の高さ)が必要である。

○防災(非日常)と交流(日常)の機能を兼ね備えた川下地区の拠点となる施設を中心に、子どもからお年寄りまで参加できるイベントなどを地域で企画運営してゆけるとよい。

#### 「身近な公園・集う場づくり」について

○一定の広さ、環境の良さ、遊具がある、スポーツ等の特定の利用目的がある公園は、子どもの利用が多い。一方で、狭い、人の目がきかない、子どもが少ない地区では、利用がほぼない。

○公園は、子どもが遊ぶ場という固定観念を捨て、散歩の途中で休憩できたり、近所の人たちがおしゃべりする場でもある。

○リニューアル+再整備の時には、管理のしやすさ(舗装など)や利用の幅を広げることも考えた方がよい。

○防災機能も担うことをふまえ、入りやすさや災害時に役に立つ設備等を検討する必要がある。

#### 「返還予定地(※)の活用方針」について

○当初はスポーツ施設としての活用を計画していたが、愛宕に類似施設が整備されたことを受けて、川下地区で望まれる土地利用のあり方を再検討する。

○地区外からの人が訪れる交流の場となるよう、スポーツだけではなく、利用イメージをもてるように見直す。

(※)ペリースクール跡地周辺約5ヘクタールの土地

# 見直しの方向性（たたき案）その1

◆方針1 快適に住みつけられる住宅地に改善する

◆方針3 多くの人が交流できる場を整備する

当初の計画（該当する方針）

見直し方針（たたき案）

新たに追加

表現を変更

表現を変更

表現を変更

表現を変更

表現を変更

表現を変更

拠点施設

方針1

◆川下出張所周辺は身近な商業の拠点となる商店街づくりに取り組む。



方針3

◆官舎跡地や引込み線跡地等の遊休公有地を有効活用し、地域の交流の場を整備する。

方針1

◆身近な公園（街区公園）は、徒歩で行ける地域に親しまれる憩いの場となるよう地域の人たちとともに使い方を考え、再整備する。

方針1

◆身近な公園は、いざという時の最も身近な防災の場として、トイレや水道等の設備を充実させる。

方針3

◆地区の拠点となる中央公園は、くすのきを活かした水辺のオアシスとして、早期に整備する。

方針3

◆（都）昭和町藤生線の整備に伴い返還を希望するエリアは、スポーツのできる交流の拠点となる公園として整備する。

身近な公園

返還予定地

◆現在の川下供用会館建物をリニューアルして、川下地区住民の防災・交流拠点となる施設の整備を推進し、日常やイベント等、多様な機会での交流を促進し、にぎわいづくりに取り組む。

◆楠中津線をはじめ、川下出張所周辺の通りにおけるにぎわいづくりに取り組む。

◆引込み線跡地等の有休公有地や既存の公共施設用地を再整理し、利用可能な場所については、地域の身近な交流の場として有効活用する。

◆数ある既存の公園を整理し、子どもから大人まで利用できる、安全で身近な交流・憩いの場となるよう、公園ごとに使い方にバリエーションを設けた再整備を行う。

◆一定の広さがある公園は、災害時の一次避難場所となることを考え、入りやすさを改良し、トイレや水道等の防災設備を充実させる。

◆楠広場とその周辺は、地区のシンボルであるくすのきを活かした水辺のオアシスとして、早期に整備する。

◆昭和町藤生線の整備に伴い返還を希望する土地は、スポーツもできる、地区内外の多くの人にとっての交流拠点となるエリアとして整備する。

「川下地区まちづくり協議会ホームページ」

<https://kawashimo.sakura.ne.jp/wp/>

川下地区まちづくり協議会

検索

みなさんのアイデアとやる気で  
**可能性無限大！**  
ご意見お待ちしております



《 協議会・連絡先 》

会長 八木 秀典

電話：0827（21）6241

事務局長 加藤 幹夫

電話：0827（22）5481